

## 私を支える**至高**の一冊



左：岩崎夏海 著

『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら』 新潮文庫刊

右：ピーター・F・ドラッカー 著・上田淳生 訳

『マネジメント[エッセンシャル版]-基本と原則-』ダイヤモンド社刊

この2冊は今から8年ほど前、私が栄養管理室長になった頃に、とても影響を受けた本です。その頃の私は職場の責任者になったばかりで、他の職員たちとどのように接すればいいのか悩んでいました。そんな時、ある研修会の講演内容に引用されたピーター・F・ドラッカーの教えに興味を覚え、まずは『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら』を読み、次に『マネジメント』も読みました。前者はちょうど「もしドラ」と呼ばれて、ミリオンセラー（2009年発行）となっていました。

印象的だったのは、ピーター・F・ドラッカーの「人こそ最大の資産」という言葉です。戦国時代の武将、武田信玄も「人は城、人は石垣、人は堀」という名言を残していますが、職場責任者として壁にぶち当たっていた私に大きなヒントを与えてくれました。行き着いたのは、私が出会う人々はすべて「私を支えてくれる大切な人」という捉え方です。自分の考えを相手に押し付けるのではなく、相手を思いやり、「自分は何を求められているのか」を考えて行動する、そうすれば相手もそれに答えて自分に返してくれるという想いでした。今となってはとてもシンプルなことですが、当時の私にとっては視界がパッと開けるような発見でした。

この視点は何も職場に限らず、家族や友達関係、ひいては勤めている会社など、あらゆることにつながります。相手の視点で考えてみてください。自ずと答えが見えてきます。

災害医療センター  
栄養管理室長  
土屋 勇人 さん



\*今回ご紹介した書籍（2冊セット）を抽選で3名様にプレゼントします。アンケートをご覧ください